



あかね! (364)
これはオムツかぶれにいいかも
みんなのお弁当の買い出しですよ

あかねは どうした?
おしり拭き買って 家へ戻りました

ごめん なさ〜い
遅いぞ!
昼メシは食べたのか?

ママが 鱈丼とって 食べてた から半分 もらって 食べたよ



約5万人収容の多目的スポーツ施設

「味スタで試合があるから観に行こう」と誘われ、何の興味もなかったのですが、せっかくなので、自分ではシッカリしていたつもりですが、息子がみると、やっぱり変だと思った。思いがけず、自分ではシッカリしていたつもりですが、息子がみると、やっぱり変だと思った。思いがけず、自分ではシッカリしていたつもりですが、息子がみると、やっぱり変だと思った。

元氣くれたFC東京
20年には五輪会場に
この味スタは2020年東京オリンピックのサッカー等の会場になること。今は改修中なので今年の試合会場はどうなることやら...

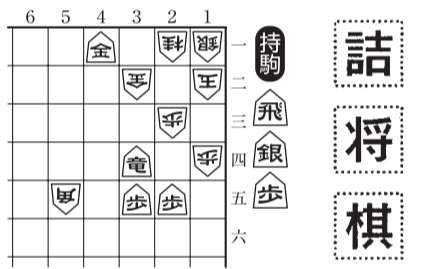
桜の季節になると飛田給駅から外語大まで、どの道を通っても桜のトンネルが楽しめます。スポーツと桜を楽しんだ後は、調布飛行場に立ち寄り、セブナ機の発着を見ながらおいしい食事とお茶を楽しみます。

我が街の記念碑
味の素スタジアム
調布市



誘ってくれたのだから、軽い気持ちで観戦に行き、いきなりサポーター席で何もわからず、周りの人と共に、歌を唄い、飛び跳ね、アツという間の90分間でした。結果は、覚えていません。が、気分はスッキリ、元気をもらいました。

と、ヤッパリ立ち上がり、ハイタッチ。ワッショイワッショイの応援歌を唄っていました。この味スタは2020年東京オリンピックのサッカー等の会場になること。今は改修中なので今年の試合会場はどうなることやら...



詰将棋

チヨット一服(986)
ロボット掃除機が火災を起した。東京消防庁の検証で、電気ストープを押ししたり、コードを巻き込んだりして、ストープが他のものに接触して火災に至ることが分かった。ロボット掃除機については、以前、ホームセキュリティを動作させることが問題となっ

「たぐいま」と元氣よく帰ると「はいよ」と返事が返ってくる。外に遊びに行くときも「行ってきます」といえば「はいよ」と一言だけ返ってくる。まったく無駄のない会話。仕事場と生活が密着している。自然な振る舞い。しかし時には遊び相手をしてくれたり、おてすかいをくれたり。いつも見守られていたのだ。



豊 宮崎伸治

「はいよ」の一言
心やさしき職人流儀

学校から急ぎ足で帰宅。仕事場の中を通りぬけ階段を駆け上がる。と部屋に入る。仕事場では親父と職人が相対して黙々と畳を縫い上げていく。長さ5寸の針と糸でワラ床にイグサと縁を縫い付け。小型の電気縫着機が甲高

昭和から平成、さらに次の時代へと変わりますが職人の世界は変わりません。正直で素直な心が職人の魂。どう生きるかは、口ではなく仕事で心えるしかない。職人は結果主義なのである。(中野)

「たぐいま」と元氣よく帰ると「はいよ」と返事が返ってくる。外に遊びに行くときも「行ってきます」といえば「はいよ」と一言だけ返ってくる。まったく無駄のない会話。仕事場と生活が密着している。自然な振る舞い。しかし時には遊び相手をしてくれたり、おてすかいをくれたり。いつも見守られていたのだ。

忘れえぬ日々

無節操
2006年にギヤスター・山本マナとの「略チユー」

写真は撮られた細野豪志衆議院議員。既婚者だったため、不倫問題として大騒動に発展し話題となった。旧民主党政権では党幹事長など要職を歴任。旧民進党では代表代行を務め、その後は、小池都知事らと旧希望の党を結党し、政権奪取を試みるが失敗。以後、無所属となるが、今年1月、自民党「階派」に特別会員として入会。将来的な自民党入会意向も表明した。

「たぐいま」と元氣よく帰ると「はいよ」と返事が返ってくる。外に遊びに行くときも「行ってきます」といえば「はいよ」と一言だけ返ってくる。まったく無駄のない会話。仕事場と生活が密着している。自然な振る舞い。しかし時には遊び相手をしてくれたり、おてすかいをくれたり。いつも見守られていたのだ。



奇跡のリンゴ 監督 中村義洋

不可能を可能にした妻への愛の記録

2013年公開の『奇跡のリンゴ』は、青森のリンゴ農家・木村秋則の実話を基にした。非常に無農薬リンゴ栽培に何度失敗しても挑戦する様子が、それ以上に秋則を支える家族の心が打たれる。特に、無謀だと知りつつ秋則の好きにさせる義父の征治(山崎努)の姿には、後継者育成の在り方について深く考えさせられた。

昨年12月30日、日本など11カ国が参加する環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)が発効。これにより、域内の工業製品や農産品の関税は段階的に引き下げられ、世界の国内総生産(GDP)の約13%を占める総人口約5億人の巨大自由貿易圏が、アジア太平洋地域に誕生したことになる。TPPによる食品の値下がりには、輸出にも追い風となるが、安い農産物の流入が国内農業にもたらす悪影響など、デメリットも心配される。とりわけ食品添加物や遺伝子組み換え食品などの規制緩和によって、食の安全が脅かされる危険性は要注意だ。



もともと映画化された作品。当時、絶対不可能と言われていた無農薬でのリンゴ栽培に挑む木村氏の苦悩・奮闘ぶりが描かれている。舞台は1970年代の青森県、サラリーマンだった三上秋則(阿部サダヲ)はリンゴ農園を営む木村家の一人娘・美菜子(菅野美穂)と結婚。勤めを辞め、リンゴ栽培に励んでいたが、ある日、美菜子の体に異変が生じる。リンゴの樹に年十数回も散布する農薬に蝕まれていたのだ。秋則は美菜子のために無農薬によるリンゴ栽培を決意するが、何度も失敗を重ね、借金ばかりが膨らみ、次第に周囲の農家からも孤立していく...